

校章の由来

「仁」の文字を使った校章

校章全体は「仁」の字を象ってイ編を、<とし、つくりの二を>として構成してあります。上部の二つのとがりは峰に雪をいただく日本アルプスの崇高優麗な容姿、そして何物にも侵されず毅然としてそびえるアルプス。そこから発する流れは、やがて相寄り相集まって豊かな水をたたえた大河となってゆく。こうした大自然のまっただ中、仁科の里にわが中学校があるという意味を表しております。

ここに育まれる我等中学生は、理想も高く、人間味にあふれ、たゆまず自らの力を培ってともに進んでいくんだという願いを込めてあります。このような我が校章に、永遠の理想、豊かな情趣を無限に汲みとることができます。

- 昭和 41 年 10 月原図募集
- 昭和 42 年 1 月審議決定
（「十年の歩み」校章の由来より
荒井好美<初代校長>）

